

科目名 (英)	医療連携演習 Health Care Coordination Practice	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	齊藤 浩吉/笹尾 可那 勝山 周斗
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
【授業の学習内容】 ・医療連携演習では他の学科の資格がどのような資格なのか、相互理解を深め、将来職種間の連携を通して最良の医療を提供する医療従事者を旨すに当たって必要な知識を養う科目である。 ・医療全体像の変遷に基づき、専門領域を異にする医療、福祉の職種が患者を中心に関与することが求められている。包括的に患者のケアを行うためにそれぞれの役割、責務について学習し、医療の現状を踏まえて連携のあり方について検討する。 齊藤 実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資格 はり師、きゅう師							
【到達目標】 <具体的な目標> ①他職種の業務内容(見方、考え方、アプローチの仕方)を理解する。 ②チームで連携するために必要なことを説明できる。 ③医療の現場で求められることを理解し、他職種や患者様に貢献できることを説明できる。 ④現場で行動する判断軸を説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	物事を考える際の構造と方法を説明できる。
2回目	人口動態の変化、社会保障の状況、地域医療・福祉などの課題について説明できる。
3回目	企業の成り立ちを理解し、社会人として求められる事を説明できる。
4回目	組織の成り立ちを理解し、連携を進めるためのポイントを説明できる。
5回目	チームが有効に作用するための要因を学び、貢献していく方法を説明できる。
6回目	リーダーシップとマネジメントの違いを学び、リーダーが取るべき行動を説明できる。
7回目	自分自身について知ることで、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
8回目	自分を取りやすい行動を考え、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
9回目	他のメンバーとの接し方を考え、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
10回目	鍼灸師の得意・不得意や他のメンバーからどう見られるのかを考え、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
11回目	他職種の特徴と仕事内容を説明できる。
12回目	多様な協働について説明できる。
13回目	他職種と協働していく上で必要な共通言語(評価基準、EBM、ICFなど)について説明できる。
14回目	連携の具体的な内容を知り、協働に必要なことを説明できる。
15回目	多職種協働に必要な事を説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)授業終了後、学んだことや感じたこと・考えたことを振り返り、文章に書き留める。 (目標②)学んだことを自分事として捉え、普段の生活で意識して生活する。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生 への メッセ ージ	
【使用教科書・教材・参考書】 参考書:授業の際に紹介します	